

## 【各学部の事例】

# 中学部



# Ⅰ 中学部3年 国語科5グループの実践事例

## (1) 対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
3年 OY (男)	①見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどを話したり、書いたりする。	中学部1段階、目標イ 思判表Bア
	②説明文などを読み取り、手順に従って行動する。	中学部1段階、目標ア 知・技ア(ウ) 思判表Cイウ
3年 SY (男)	①見聞きしたことや体験したことなどのあらましや自分の気持ちなどを話したり、書いたりする。	小学部3段階、目標イ 思判表Aウ、Bアイ
	②文章を読んで分かったことをまとめたり、感想をもったりする。	中学部1段階、目標ア 知・技ア(イ) 思判表Cエ
3年 FR (男)	①相手に伝わるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、自分の気持ちを添えて文を作る。	中学部1段階、目標イ 知・技ア(エ)、イ(ア) 思判表Aイウ、Bイ
	②説明文などを読み取り、手順に従って行動する。	中学部1段階、目標ア 知・技ア(ウ)(オ) 思判表Cイウ

## (2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは生徒名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「修学旅行をプレゼンしよう」(実体験に伴う感想やおすすめの理由を明確にした文を作る、声の大きさ・速度・明瞭さを意識して話す) OY、SY、FR① 「説明文を読もう1、2」(説明文を読み、質問に正しく答えたり、内容を簡単にまとめたりする) …OY、SY、FR②
生活単元 学習	「Let's go 仙北市」(体験したこと、見聞きしたことへの感想を話したり書いたりする。手順表等を読み取って、調理や制作をする) …OY、SY、FR① ②
日常生活 の指導	「帰りの会」(出来事を振り返り、それに伴う感想を声の大きさや速度等を意識して話す) …OY、SY、FR①
その他	「行事や学習の振り返り」(目標に対しての振り返りや感想などを詳しく書いたり、話したりする) …OY、SY、FR①

## (3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

① 単元名「修学旅行をプレゼンしよう1・東京ディズニーランド編」(計9時間)

② 単元目標(全体目標)

ア 相手に伝わる話し方や文の構成が分かり、発表する。(知・技)

イ 相手に内容が伝わるように、伝えたい事柄を順序立てて文の構成を考えたり、声の大きさや速度、明瞭さを意識して話したりする。(思判表)

ウ 友達の発表に関心をもって聞くことや、相手に話して伝えることの大切さに気づき、生活場面に生かそうとする。(学・人)

### ③ 単元設定理由

生徒3名は、人前で話すことや自分の考えや感想を表現することに苦手意識があったり、注意がそれてしまい、話の要点を聞き逃してしまったりすることがある。人前で話すことや自分の考えなどを表現することが苦手な生徒たちも「伝えたい」意欲と、「何のために学習するのか」という目的意識をもつことで、苦手とする活動にも積極的に向かえろと考え、本単元を設定した。

本単元では、自分たちが体験した修学旅行を基に、自分のおすすめを2年生に紹介するという言語活動を設定した。聞き手の2年生は「聞きたい」意欲をもち、話し手の3年生は修学旅行の楽しさを「伝えたい」気持ちをもってゴールとする発表会に臨めろと考えた。

また、原稿作りにおいては、相手に伝わりやすい文の構成を考えること、発表場面では、声の大きさや速度、明瞭さを意識して話すという話し方を身に付けることができるろと考えた。習得した話し方は、「せんぼくいいきい5デイズ」や「まとめの会」などの他の学習での発表場面でも活用でき、伝わったという実感が得られることで、自分から伝えることの楽しさを感じ、積極的に発信しようという気持ちの高まりにつなげたいろと考えた。

### ④ 単元の個人目標

※単元終了後の学習評価を次の評価で行う。

- ◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。  
 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。  
 △：一部達成している。まだ支援を要する。

生徒	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標及び内容
OY 3年 (男)	知・技	・伝えたいところを大きな声でゆっくり、はっきりと話すことを意識して話す。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技] ア(イ) (キ) [思判表] A-オ
	思判表	・項目に沿って、おすすめの理由や体験時の感想などを添えて発表原稿をつくる。	○	
	学・人	・友達の発表に関心をもって聞き、自分の考えを友達に伝えようとする。	◎	
SY 3年 (男)	知・技	・伝えたいところを適切な声の大きさや速さ、明瞭さに気を付けて話す。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技] ア(イ) (キ) [思判表] A-オ
	思判表	・自分の体験をもとに、事実と感想を交えながら、文の順序を考えてまとめる。	△	
	学・人	・友達の発表を聞いて感想をもったり、友達に伝えようとしたりする。	○	
FR 3年 (女)	知・技	・伝えたいところを大きな声でゆっくり、はっきりと話すことを意識しながら話す。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技] ア(イ) (キ) [思判表] A-オ
	思判表	・自分の体験をもとに、聞き手が分かりやすい文の構成を教師の見本を参考に考える。	○	
	学・人	・相手に伝わる話し方に留意しながら、友達に自分の考えを伝えようとする。	○	

⑤ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 教師の範読の提示

ロイロノートに教師の範読を録音し、話す速度や句読点での間の取り方の見本となるようにした(写真1)。範読があることで、相手に伝わる話し方が分かり、見本として活用して練習した(写真2)。また、活用するかどうかは生徒の判断に任せたことで、必要かどうかを自分で決め、見本として範読を聞いてから発表練習したり、範読の音声に合わせて発表練習したりと、生徒が自分に合ったロイロノートの活用の仕方を工夫する姿につながった。



写真1 ロイロノート 教師の範読



写真2 ロイロノート 活用場面

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 伝わる話し方の提示

聞き手に伝わる話し方として、「大きな声で、ゆっくり、はっきり話す」という三つのポイントを示したことで(写真3)、生徒が発表の際に、そのポイントを意識して話すことができた。また、個人練習、集団の前での発表練習、動画を用いての振り返りと話す機会の確保とそれを自分や友達と一緒に振り返る場面を設定することで、どうすれば三つのポイントを達成できるか考えながら、練習や振り返りができた(写真4)。

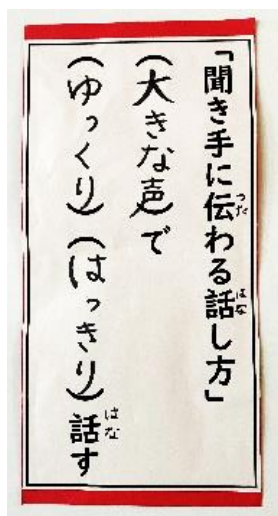


写真3 聞き手に伝わる話し方の提示

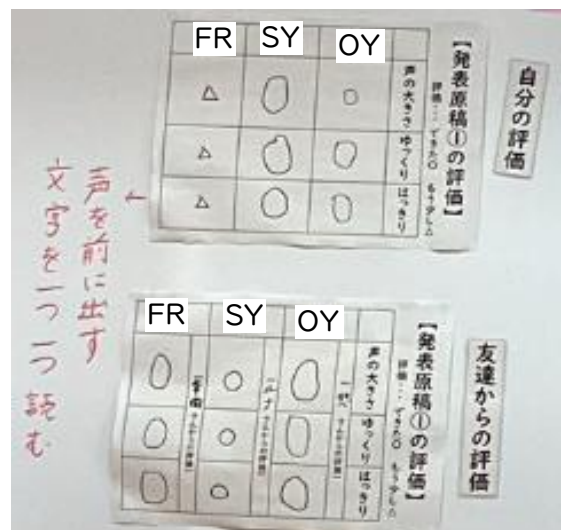


写真4 動画を用いての振り返りと自己評価

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 相手に伝わるための工夫

伝わる話し方としてポイントを提示したが、相手に伝える、伝わるためには様々な要素がある。文章もその一つであり、より相手を意識して、「伝えたい」と思う文章の構成が必要であった。

相手に伝わるためには、ポイントとして示した「声の大きさ」「ゆっくり」「はっきり」以外にも表情や身振りなども考えられる。これらを網羅するには、国語科の授業だけではなく、普段の授業においても意識していくことが必要であるが、国語科として何をねらうのか、生徒の実態を基にした精査が必要であった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 対話的な学び

聞き手に伝わる話し方として、三つのポイントを示したが、生徒によっては自己評価が厳しい生徒もいた。「できた」という達成感で授業を終えられるよう、具体的にどこまでできたら「○」とするのかの評価基準についての最適解を生徒たちが話し合い、生徒たちで出した最適解を意識して授業に臨めるような場面を設定したい。

(4) 他の学習場面における国語科単元で学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象生徒・単元名、関連する国語科の年間目標

総合的な学習の時間・3年・SY・「せんぼくいきいき5デイズ」(計13時間)・年間目標①

② 国語科の対象単元の個人目標及び年間目標に関わる成果

ア 公の場での発表の仕方

聞き手を意識した発表場面では、原稿を基に大きな声で、ゆっくりはっきり話すこと、さらには顔を上げて話すことに留意して発表するようになった。「せんぼくいきいき5デイズ」では、お客さんに伝えたいことがしっかりと伝わり、大きな拍手をいただいたことで、発表がうまくできたことに自信をもつことができた。

③ 授業者の課題・改善案

ア 日頃の生活の中での話し方の定着

改まった発表場面では、聞き手を意識した話し方に留意できるが、日頃の生活の中では、話す内容に自信がもてず、聞き手を意識した話し方の定着までは至っていない。話すことに必要な相手意識をより高めていくこと、話すことへの自信を高めていくことが必要である。

2 中学部 国語科4グループの実践事例

(1) 対象児童と段階、年間目標等の設定

児童名	年間目標 (国語科で目指す資質・能力)	国語科の段階・目標・主な内容
2年SK (女)	①体験した物や言葉(5文字程度)を写真を見て思い出し、話したり、書いたり、カードを選んだりして文を作る。	小学部3段階 目標イ 知・技 (3)イ 思判表 AイBアウ
	②簡単な物語文を読んだり書いたりして、話の大筋を聞き取ったり感想をもったりする。	小学部3段階 目標ウ 知・技 (3)ア 思判表 AイCアイ

3年 MA (女)	①体験した出来事をイラストや写真カードを手掛かりに伝えたいことを考え、言葉で伝えたり、なぞり書きをしたりする。	小学部3段階 目標イ 知・技 (3)イ 思判表 A イ B ア
	②簡単な物語を読んだり聞いたりして、話の大筋を聞き取ったり、選択肢から選んだりする。	小学部3段階目標ウ 知・技 (3)ア 思判表 A イ C アイ

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名(指導内容)★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「物語を読もう カチカチ山、ブレーメンの音楽隊、花さか爺さん等」(物語の読み聞かせを聞いて、登場人物の名前や簡単な質問に選択肢から答える)…SK②、MA② 「思い出を振り返ろう、わくわく新聞を作ろう」(行事や授業等を写真や動画で振り返り、関連した言葉を正しく読んだり、書いたりしながら簡単な感想で表現する)…SK①、MA①
生活単元学習	3年生「Letsgo 仙北市」、1・2年生「〇〇をおもてなし」(体験したこと、見聞きした言葉を正しく書いたり、読んだりする)…SK①、MA①
作業学習	「作業日誌の記入、振り返り」(作業の関連した言葉【目標、活動内容、使用するもの】を書いたり、目標を振り返って簡単な感想を書いて発表したりする)…SK①、MA①

(3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

① 単元名「わくわく新聞～いきいき5デイズで頑張ったことを家族に紹介しよう」(計4時間)

② 単元目標(全体目標)

ア 「せんぼくいきいき5デイズ」に関連した言葉について、写真を手がかりに正しく言葉を選択したり、主語、感想等を書いて文を作ったりする(知・技)

イ 書き間違いがないように丁寧に書いたり、単語をまとまりで読んだりする。(思判表)

ウ 友達や教師、家族に新聞を見てもらう活動を通して、いろいろな言葉を使ったり、正しく書いたりして伝えることを楽しもうとする。(学・人)

③ 単元設定理由

本単元は生徒が経験した行事を写真や動画で振り返り、行事に関連した言葉を覚えて、正しく書いたり読んだりする。そして、その言葉を使って、簡単な感想を話すことを目的としている。自分の感じたことを伝えたいが、言葉の名前や気持ちの伝え方が分からずに話すことを諦めてしまうことがあった。前単元では、運動会や学校祭、作業学習週間を取り上げて新聞づくりを行ったことで、言葉の理解へとつながり、生活の中で自分から積極的に話すことが増えてきた。今回、せんぼくいきいき5デイズを取り上げて、自分たちの頑張ったことを新聞にして保護者に伝えようとする中で、より伝えたいという気持ちを高め、関連した言葉を正しく読んだり、書いたりして文を作ることへとつながるのではないかと考えて単元を設定した。



④ 単元の個人目標

※単元終了後の学習評価を次の評価で行う。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。				
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。				
△：一部達成している。まだ支援を要する。				
生徒	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標及び内容
SK 2年 (女)	知・技	・「せんぼくいきいき5デイズ」に関連した言葉について写真を手がかりに、正しい言葉を選択したり、主語や感想を書いたりして文を作る。	◎	小2段階 (1)目標アイ (2)内容 [知・技] ア(イ) (ウ) [思判表] Aウ Bアイ
	思判表	・濁音や半濁音に気を付けて丁寧に視写をする。 ・言葉のまとまりで文を読む。	○	
	学・人	・友達や教師、家族に新聞を見てもらおう活動を通して、行事に関連した言葉を使ったり、正しく書いたりして伝えることを楽しもうとする。	○	
MA 3年 (女)	知・技	・「せんぼくいきいき5デイズ」に関連した言葉について、写真を手がかりに、写真と合う言葉を選択肢から正しく選んで文を作る。	○	小2段階 (1)目標アイ (2)内容 [知・技] ア(イ) (ウ) [思判表] Aウ Bアイ
	思判表	・丁寧に視写やなぞり書きをする ・写真や語頭の平仮名を手掛かりに言葉を読む。	◎	
	学・人	・友達や教師、家族に新聞を見てもらおう活動を通して、行事に関連した言葉を正しく選択したり、文を読んだりして伝えることを楽しもうとする。	○	

⑤ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境づくり

(ア) かるたを取り入れた導入

行事に関連した言葉を取り上げて、かるた(写真5)を導入で行った。かるたを行うことで、本時で取り上げる行事が分かって学習に取り組むことへとつながった。かるたは、表に平仮名、裏に確認できるように写真を貼り付けた。読み上げられた平仮名をよく見てかるたを取ったり、取ったかるたが正しいか裏の写真を見て確認したりして学習した。繰り返しすることで、行事に関連した言葉を覚え、正しくかるたを選ぶことができた。



写真5 「かるた」裏面の写真と文字の確認

(イ) 言葉の一覧表の提示

国語科で取り上げた言葉を一覧表(写真6)にまとめた。導入で前時に出た言葉を確認したり、まとめて本時に出た言葉を付け加えたりすることで生徒が学びの履歴を知ることへとつながった。

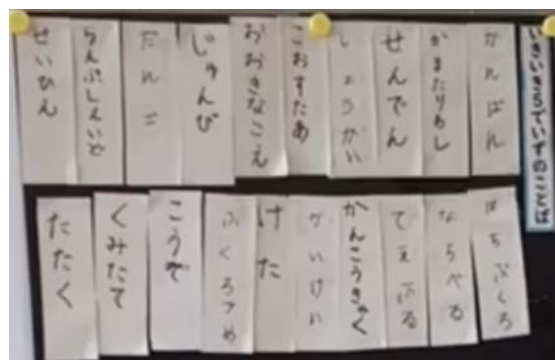


写真6 一覧表を用いて言葉の確認

## イ 具体的に考える場面の設定と工夫

### (ア) ロイロノートスクールの活用

ロイロノートスクールを活用し、行事に関連した言葉や感想を選択肢から選んで文を作れるようにシートを作成した。選択肢の中に似た言葉を入れたことで、言葉を語頭で判断せずに、最後まで読んで選ぶことができた。また、主語は青、感想は赤などと色分けしたことで、写真を見て、言葉をよく見て正しく選ばうとする様子が見られた(写真7)。また、ロイロスクールノートで作った文を見本に視写やなぞり書き(写真8)をする学習の流れを設定したことで、正しく言葉を覚え、書くことにつながった。

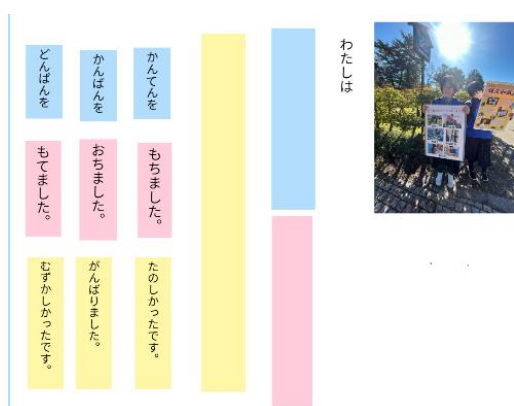


写真7 正しい言葉の選択

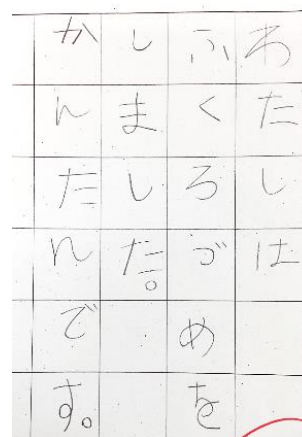


写真8 視写となぞり書き

## ⑥ 授業者の課題・改善案

### ア 適切な言語環境づくり

#### (ア) 身に付けさせたい言葉の精選

生徒は、言葉を一音ずつ拾い読みすることが多く、言葉をまとまりとして捉えることに難しさがある。しかし、提示した言葉の中には、拗音や長音、濁音もあり、見分けて言葉を選択したり(かるたや文を作る場面)、選んだ言葉を主語、述語、感想に当てはめて文を作ったりすることが難しい場面があった。経験から正しい言葉を選ぶことができることもあったが、生徒一人一人が言葉や平仮名をどこまで理解しているのか、実態把握が不十分なところがあった。生徒に合ったねらいの焦点化と、それを基にした授業計画と目標設定が必要であった。

#### (イ) 単元の目的の明確化(新聞を作って、保護者に発表する)

生徒たちの興味関心を引き出すために、新聞を作って保護者に発表するという計画を立てたが、「新聞に対する理解」や「保護者に見せる形態は新聞でよいか」という点から、「何のために学習を行っているのか」目的を生徒が理解していないと感じた。生徒にとって、どのような形にすれば、分かりやすいのか、構成をよく考えた上で、提示することが必要だった。目的が伝わることで、より言葉を覚えたい、書きたいという意欲にもつながるため、目的を明確にした授業づくりを心がけたい。

## イ 具体的に考える場面の設定と工夫

### (ア) 生徒同士でやりとりする場面の設定

導入で行ったかるたは、教師も入ったことで、友達同士でやりとりをして取り組むことに有効であった。それ以外の場面では、教師と生徒がやりとりをすることが多くなってし



まった。例えば、①友達の写真を見て文にしてお互いに発表する、②まとめて文を発表する際、友達の作った文を読んで、授業のめあてが達成できているか確認するなど、授業の各箇所で、やりとりする場面設定の工夫ができたのではないかと考えた。

#### (4) 他の学習場面における国語科単元で学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象生徒・単元名・関連する国語科の年間目標  
作業学習・2年SK・「作業学習週間Ⅱ」(計30時間)・年間目標①

② 国語科の対象単元の個人目標及び年間目標に関わる成果

##### ア 授業に関連した言葉の定着

国語科の授業の中で、言葉を一音ずつ読む、選ぶ、書く学習をしたことで、実習日誌の目標設定や振り返りの際に、言葉を正しく書いたり、読んだりすることに積極的に取り組むことが増えた。また、正しく読んだり、書いたりできる言葉が増えたことで、自分から作業内容や目標を書く姿にもつながった。

##### イ 大きな声での発表

言葉を一音ずつ話していたため、文として読むことが難しかった生徒だが、言葉をまとまりとして読むことができるようになり、作業の振り返りの場面では、みんなの前で自信をもって大きな声で発表することができるようになってきた。

③ 授業者の課題・改善案

##### ア 実態把握に基づいた言葉の精選

国語科の授業を通して、生徒一人ひとりの実態把握と共に、授業の中でどの言葉を理解させたいかを精選する必要があった。また、国語科で学んでいることを作業学習や生活単元学習と連動させて学習することで、言葉のよりよい理解へとつながったと考える。作業学習や生活単元学習の担当職員と国語科の担当職員が違うため共有できるツールがあるとよかったと考える。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

① 「中学部の約束」の共通理解

学部職員で共通理解して取り組めるように、生徒に求めていきたい項目を三つ約束として、各教室に掲示した。すべての授業の約束事として授業の始まりに確認してきたことで、生徒の「聞く姿勢」に大きく変化が見られ、話を最後まで聞くことが定着した。また、「聞く姿勢」が定着してきたことで、教師の話の内容をしっかりと理解することにもつながり、分からない時は、積極的に挙手をして質問する場面が見られるようになってきた。

② 生徒の考えや思いの言語化

自分の考えや思いをうまく言葉に表現できない生徒が多い中で、教師が生徒の片言を文章として代弁して周囲に伝えることを繰り返したことで、自信をもって話すことにつながった。また、意図したことでなくても相手が違う解釈をしてしまうこともあり、教師が言葉を言い換えることで、正しい表現方法を学ぶことにもつながった。また、字を書くことに苦手意識がある生徒に対して、ロイロノートを用いて、選択肢などを取り入れたことで、自分の思いや考えを容易に伝えることができた。

### ③ 体験を基にした単元構成

感想や反省を考えて書くことが苦手な生徒もいるため、体験を基にした単元を年間指導計画に盛り込んだ。体験がベースにあるため、活動を思い出しながら自分の考えをまとめることができた。また、体験内容を思い出せるようにタブレット型端末を用いて動画や静止画を視聴したり、ロイロノートに言葉や文章を入力していったりしたことで、考えを深めたり、相手を意識した文の構成を考えたりすることにもつながった。

## (2) 課題

### ① 教師間の共通理解

国語科のグループ構成は学年をまたいで実態別に行っているため、担任以外の教師が教えることもある。学部の中でねらいを確認するのは年度初めの1回であったため、年間を通して、どのようなねらいで何を学んでいるのか共通理解を図ることが難しかった。また、タブレット型端末を主に使用して学習しているため、学んでいることを他教師が確認するということが難しい学習もあった。担任間でねらいを共通理解しながら学習を進めていくとともに、学習していることを教室に掲示したりタブレット型端末からプリントにしたりして、学習の履歴として「見える化」する工夫も必要と考える。

### ② 生徒同士の言語活動の設定

国語科はグループ学習であるが、対教師とのやりとりになってしまうことが多く、グループの良さを生かして話し合い活動などの生徒同士の言語活動の場を設定することが難しかった。生活単元学習や作業学習においても、相手の意見を受け入れることの難しい生徒がいる中で、国語科の授業をうまく活用し、言葉の意味を深めたり、様々な考えに触れる機会を確保したりしていきたい。